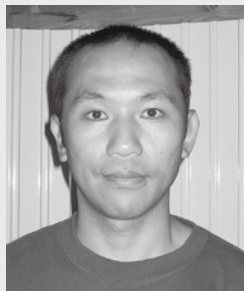


昨年度まで年2回発行していた「いつでも・どこでも・だれでも・なんでも・まなぶ」常陸大宮市生涯学習だより「DEMO（でも）」は、装いも新たに「DEMOミニミニ版」として広報常陸大宮に掲載していくことになりました。DEMO編集委員が地域の生涯学習の話題をレポートします。

尺八に魅せられて

大部 じん さん（檜山在住）

●本名は「ひとし」と読みますが芸名は「じん」と読みます。



旧伊勢畑小学校前を左折、御前山ダムを通りぬけると、山々に囲まれ田んぼや野菜畑が広がる風情豊かな一角に『藍空尺八工房』があります。工房では、大部さんが尺八を作っています。

～尺八との出会い～

「アジアを旅していた時、インドで聴いた低くて物静かな音色の尺八の魅力に惹かれました。学生時代、ギターを弾いていたり、小さい頃から物作りが好きだっただったので、私にも作れるのではないかと思ったのです。」と当時を懐かしむようにニコニコと尺八との出会いを話してくださいました。

～お気に入りの一本を求めて～

尺八作りは、真竹を選び、火であぶって油抜きをし、3年以上、陰干しして乾燥させることから始まります。その後、節を抜く・漆やとの粉（と石を削って作った粉）で竹の中を成形する・6～7回の漆塗りなど、いくつもの工程を経て、一本の尺八が出来上がります。その間、約6カ月。微調整を繰り返すなど細かい作業の連続です。地味で根気のいる仕事と敬服するばかりでした。大部さんは、演奏を学びながら、専門家を尋ね歩き、独学で技術を身につけたそうです。

「自分の思い通りの一本が出来た時の喜びは、次の製作意欲の源になる」と、満面の笑みで語られました。

現在、大部さんは、製作しながら演奏活動もしています。「琴や三味線だけでなく、いろいろな楽器とのコラボレーションも楽しい」と、目を輝かせる姿が印象的でした。



エンジョイ!!生涯学習

佐藤 茂 さん（松之草在住）

～“生涯学習”は“笑学楽習”に!!～

サルビアがまばゆい秋日和に、佐藤さん宅を訪ねました。熱のこもった口調で、次のように話されました。

「かつて、県庁勤めをしていた頃、趣味としての写真の技術の向上にと、講座通いを続けていた。その頃知り合った仲間との縁で、趣味が陶芸や俳句へも広がり、仲間も増えた。退職を機にそれぞれの分野に没頭できるようにもなった。本格的な学びを試みようという思いがあったので、遠路、笠間や水戸通いも苦にならず続けられた。」

また、「生涯学習は笑学楽習でありたい」と、穏やかに話される佐藤さんですが、「成せばなる」の精神で、多くのことに挑戦し、人一倍の努力と研究を重ねる芯の強さが感じられました。

～多くの方に触れ合い、伝えて～

佐藤さんは、今まで身につけたことを、公民館講座や幼稚園・小学校での親子教室、中学・高校生への体験学習等で幅広く伝えていて、訪問後に寄せられたお礼や感想のお手紙を「私の宝です。勇気付けられ元気をいただけるのです。」と話し、大切にしています。

市の文化協会や生涯学習関係の役職も多く、日々ご多忙とのことですが、どんな時にも、人と人との和を重んじ、福祉方面でも意欲的に活動が続いている佐藤さんへ、「末永くご活躍を!!」と心からエールを送ります。



◆次回の掲載は2月の予定です。